

## 第2回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 平成28年2月16日(火)10:00～11:40

2 場所 ハピネスふくちやま3階 会議室1

3 出席者

委員	青山委員長、大久保委員長職務代理、菊田委員、中井委員、細見委員※
福知山市	差峩副市長、長坂室長、山中課長、岸本課長補佐、大槻主査、阪根主査、河野主査

※途中退席

4 会議概要

	議題	内容
1	中期目標(案)・中期計画(案)について	【資料1】【資料2】により中期目標(案)、中期計画(案)を説明
2	意見交換・質疑等	<p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■新たに前文を掲げられて、人口60万を抱えるこの地域のためにという目標を明確にされたことにより、前回の原案よりこの大学が目指そうとしているものがクリアになり良くなったと感じている。</li> <li>■「早期に入学定員200名の実現を図るものとする。」とあるが、200名という具体の人数を中期目標に入れても良いのか。</li> <li>■50名を120名にすることに文部科学省からの確証が得られていない中で、中期目標において支出を抑えることを書くのは教育の質の保証の観点上リスクがある。</li> <li>■大学卒業後、やはり外に飛び出す方もいる。そういう方達に配慮した表現を入れてもらいたい。福知山公立大学で学び、外に出た人達も福知山に貢献してくれるようなニュアンスの表現が入ればよいかと思う。外にネットワークができるのは強みと考える。</li> <li>■外部資金、独自資金の件については、このご時勢、地域、自治体、企業に対して協議しても、持ち出し一方では何も聞いてくれない。winwinの関係をいかに作るかが重要。地元の高校まわりでは、受験をしてもらうだけではwinwinにはならない。送り出す高校は合格、入学があって初めてwin。その場合、定員200名体制、50名の地域枠がひとつの要素になる。</li> </ul>

## 5 協議・報告事項（■は委員からの意見 ⇒は市回答）

### （1）中期目標（案）・中期計画（案）について

（市）【資料1・2】により説明。

- 【資料1】中期目標8頁において「北近畿地域連携センター」を設置することが新たに記載されているが、資金計画等の金額の変更はないのか。  
⇒以前からお示ししている財政シミュレーションの予算範囲内で取り組むため、金額の変更はない。
- 【資料1】1頁の前文中段において、「北近畿地域の市町と広域的に連携・協力して総合力を高める…」とあるが、この「総合力」とは何を意味するのか。中期計画4頁において「生きていくための総合力（人間力）」とあるが、前文の「総合力」とは意味が異なるように感じる。前文の「総合力」に補足が必要ではないか。  
⇒前文の「総合力」は市町で連携するという。地域の特性を活かしながら連携していく中で、地域の「総合力」、そして、学問を通して人間的な「総合力」を高める人材を育てていきたいという意味である。
- 北近畿地域全体がそれぞれ連携しあって力を高めていくという意味合いの内容を書き加えればどうか。
- 新たに前文を掲げられて、人口60万を抱えるこの地域のためにとという目標を明確にされたことにより、前回の原案よりこの大学が目指そうとしているものがクリアになり良くなったと感じている。ただし、1フレーズが長く、主語述語がはっきりしないため分かりにくい。
- 前文について、少し文章整理が必要。
- 4段落目の「北近畿地域が…」という主語が受ける部分がどこかを明確にしたらもっと良くなる。
- 【資料1】3頁「第3 教育研究上の基本組織」において、「早期に入学定員200名の実現を図るものとする。」とあるが、200名という具体の人数を中期目標に入れても良いのか。
- 本大学は、定員増がないと財政計画が成り立たないという仕組みであり、定員増が前提である。
  - ・基本的には大学を設置してから4年間は設置認可申請書に書いたことを変更してはいけない。履行状況報告書に書いたことを4年間しっかりやり、その成果を見て次の新しい目標を立て、設置認可につなげていくという仕組みである。
  - ・したがって、中期目標期間中に定員増を含めた計画を進めるというくらいにとどめておいたらどうか。国の場合、前例、先例主義なので、過去に定員増して問題のない法人の例があるのであればそれでよいのでは。
  - ・今回設置認可受けたのは50名定員であるが、6年間の収支計画において予算は約30億となっており、平成29年度から定員を120名に増やす前提で収支計画は成り立っている。今後文部科学省と相談のうえ、定員増を図っていくとのことだが難易度は高い。

- ・中期目標案の 12 頁、「計画的な定員増加が実現しないことなどによって運営費交付金の増加が見込まれる場合は、速やかに全支出に対する抜本的な見直し経営改善計画を策定し、実行するものとする。」となっているが、文部科学省が定員増を認めなければ、福知山市は法人に対して支出を抑制することを指示することになる。指示された以上、法人は支出を削減するしかない。
- ・研究費が少ないうえに、北近畿地域連携センターを作るとなるとお金がかかる。そうすると、リストラをかけるのか、学生の授業料を上げるのかという課題が生じる。本当にこの収支計画で大丈夫か。本当にこの中期目標に書いた人材育成ができるのか。
- ・もし定員増が認められず、収支計画が成立しなくなったとしても、文部科学省の認可が得られない限り大学を閉じるわけにはいかないのだから、福知山市は資金を入れてでも大学を維持しなければならないことになる。
- ・教育の質を保証するうえで、資金がないという理由で質を保証できなくなるおそれがある大学に開学 2 年目から陥りかねないという危惧がある。
- ・課題活動支援、地域連携支援などにはお金がかかる。一般管理費で持つのか、それとも教育研究経費で持つのか。収入を上げたいときに学費を上げることが難しいとなると、どこから資金を持ってくるのか。
- ・50 名を 120 名にすることに文部科学省からの確証が得られていない中で、中期目標において支出を抑えることを書くのは教育の質の保証の観点上リスクがある。議会ではこういうことを踏まえて議論いただきたい。
- 定員 120 名が認められないとなると、ハードは削れないため、研究費等のソフトを削るしかない、
- ・中期目標 12 頁「抜本的な見直しを含めた経営改善計画を策定し、…」の後に「大学教育の質の確保を念頭に置きつつ実行する。」というような文言を加えたら、質を落とすことができないということに匂わせられないか。
- 支出を抑えることが全てということではなく、多少、予定よりも多く運営費交付金を入れる一方で支出を抑えるという両方でないといけない。
- ⇒定員 200 名は、“教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想”において目標としている数字である。
- ⇒文部科学省には、現在の 50 名定員では経営が成り立たないことは理解いただいております、早急に定員増の道筋をつけてもらうよう依頼中である。来年になるか再来年になるかは未定だが、具体的に 120 名、200 名という数字を出して定員増に向けて動いている。
- ⇒財政計画は、平成 29 年度 120 名を想定しているが、外部資金を確保するために、市民や北近畿地域の自治体、企業などに一定の支援を頂きたいと考えている。定員増が予定通りいかなければ、大学には、外部資金の獲得に向けて、自治体の協力を得ることや、社会人を対象にしたキャリア支援講座などで授業料の確保に取り組んでもらいたいと考えている。
- ⇒御意見を頂いたように、教育の質は落とせない。教育の質の確保がないと、入学者は増えないと思うので、質を確保するという文言は入れたほうが良いと思う。

⇒もし定員増が予定通りいかない場合でも、一定の教育費はみていくつもりだが、外部資金などでもみていきたい。数年後には200名の定員にできるよう文部科学省と交渉を続ける。

■方向性だけでも書ける部分は書いていくほうが良い。

■中期目標に200名と書くことについてどうするか。

■文部科学省とそのような交渉ができているのなら、書いても良いのでは。

⇒私立大学から公立大学に設置者変更することについて全国的に注目を浴びているので、文部科学省にはあくまで目標としてあげさせてもらいたい。

■中期目標に200名と書いたものの、6年間の中で目標達成できなければ批判の対象になるのでは。

⇒批判の可能性はあるが、6年間の中で200名という数字を達成できなければ、北近畿地域としての公立大学の意味合い、存在意義がなくなる。200名定員という枠組があってこそ50名という地域枠が取れる。

■外部資金という話が出てきたが、大学運営に加わってもらうようにできないか。今の段階では寄付金と書かれているが、寄付金は経営参加ではないのでは。

⇒5市2町による京都府北部地域連携都市圏構想の中で、福知山は教育のまちとして福知山公立大学を核とした関わりができないかを議論中である。運営という意味では寄付金でなく出資のほうがよい。兵庫県の5市2町とあわせて、北近畿地域10市4町において、そのような枠組みができればと考えている。すぐには難しいかもしれないが、2、3年の間には、10市4町の自治体、商工会議所、企業とそのような組織をつくることができると考えている。

■出資と寄付金は一致しないのではないか。

⇒まだ他の自治体との協議ができておらず、受け入れ母体もしっかりとできていない中であり、また、縛りをかけてしまうことにもなるので、今は出資とは書けない。なお、受け入れ母体は北近畿地域連携センターとなる予定である。各自治体、企業へ仕掛けていくということで、表現は寄付金としているが、将来的には出資として運営に関わっていただきたい。

■それは第一期の中期目標では難しいかもしれない。

⇒各自治体の首長同士ではいろんな意見交換はしたが、事務担当者のほうで具体的な話はまだできていない。各自治体の副市長や商工会議所の会頭とお会いして、公立大学構想をお伝えする中で、今まで京阪神へ出て行った若者を福知山公立大学で引き止めるということを御理解いただいている。この表現で良いように思う。

■今のところは、今の書き方で近隣の市町村と協議を重ねながら出資という方向に持っていくということでもいいか。

⇒そのようにしていきたい。

■【資料1】12頁、「基本構想に示した…」とあるが、「基本構想」とは。

⇒こちらは“教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想”のことを指している。前文にも“教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想”という文言を使っており、以下「基本構想」という表現を使用している。この基本構想の中に定員増加計画を記載している。

■ “教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想”に記載されている定員増加の計画が中期目標に反映されて書かれているという理解でいいか。

⇒はい。

■【資料1】3頁の中期目標「第3 教育研究上の基本組織」の右側の中期計画欄が空白になっているのは何故か。

■現段階では、中期計画の案は、中期目標について評価委員会で議論いただくために市で提示している仮案という意味合いだと思うが、中期計画は、大学が開学してから大学で作成するのか。

⇒中期目標については、評価委員会で議論いただいたものを3月議会に上程する。そして、法人設立後、市が法人に中期計画を作成するように指示することになる。法人は中期目標を反映した中期計画を作成し、市の認可を得る。また、中期計画の下には毎年の年度計画があるという仕組みである。4月以降、法人から中期計画の申請があり次第、評価委員会の御意見を聴きながら市において認可する。

■ “教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想”も議会の議決事項なのか。

⇒議会の議決事項ではない。4年制大学については特別委員会で慎重に論議いただいているので、基本構想の見直し等があれば、特別委員会に報告する予定である。

■中期計画は大学側が策定するということが、市の案がどのくらい大学側に受け入れられるのか。

⇒大学に指示できるのが中期目標である。大学はこれを全く無視できないはず。計画に反映させていただけると思う。

■社会人の受け入れや社会人入試の制度も検討とあるが、どうなのか。

■社会人を受け入れるとなると、夜間、土曜日などの開講が必要になり、それに伴い教員、事務局の負担が増えるため、人員が必要となる。それが継続すると、社会人の受け入れができなくなる可能性もある。

■社会人の受け入れについて、文部科学省は、18歳以降だけをターゲットとせず、多様な学問を持った受験生を入れるということをキーワードとして進めようとしている。アドミッションポリシーとしてはこの点をやらないといけない。人材育成の目的に「地域の問題解決に社会人としてどう機能するか」という点も必要ではないかと思う。

・一方で、社会人向けの講座を実施するなど、地域貢献のことを書いているが、それを混同してはならない。社会人学生を対象とした本格的なものをやるのか、授業を切り売りしていろいろな世代と一緒に受講させるのか、地域の人向けに講座を持つのか、ニーズを満たすためにどうアプローチするのかを議論する必要がある。ポリシーと社会人を受け入れることが合致しているのか。個人的には、入試で社会人を受け入れるより、これまでの成美大学のように地域の人たちに技術、知識を与えて学生と交流させるという形が良いかと思う。

■社会人といってもいろんなレベルがある。それを念頭に置くとすると、中期目標はこれでよいと思うが、中期計画の中で具体的にどのように書いていくのか、市の方も覚悟を持ったほうがよい。

・他大学では、大学院の1年コースというものがある。市職員の方や府県職員の方、

NPOで活動している方、民間企業の方など多くの方々が、修士を取得するために大学に学びに行っており人気のようである。2年間だと少ししんどいが、1年間だったら受講可能と感じる方が多いようである。こうしたニーズもあるということ念頭に置きつつ、具体的に中期計画を考える必要がある。

- ・もちろん、生涯学習的なことや履修証明的なことも大事だと思うが、中期目標はこれでよいかと思う。
- ・最後にひとつ、ニュアンスとしてでもいいので、どこかに文言が入ることを希望して申し上げたい事項がある。前文の中に『地域の発展に寄与できる人材を育成・確保し、「地域で学び、地域で働く」という人材循環システムを構築しなければならない』とある。これが大きな目標であることは理解しているが、大学卒業後、やはり外に飛び出す方もいる。そういう方達に配慮した表現を入れてもらいたい。地域とつながるとか、外に出ても地域や大学に貢献してくれるような意味合いの文言がどこかに入れればよいかと思う。「地域で学び、地域で働く人材循環システム」これだけを求めるのは若干もったいない。福知山公立大学で学び、外に出た人達も福知山に貢献してくれるようなニュアンスの表現が入ればよいかと思う。外にネットワークができるのは強みと考える。

⇒福知山に似た地方都市の高校に訪問した際、「4年間福知山で学んでいただいた後は、それぞれの地域にお返しする。福知山市は地域課題解決の人材を育成し、福知山公立大学をキーワードとして人と人とのネットワークを作りたい。」と申し上げてきた。「地域」という表現は北近畿地域だけを指しているのではなく、福知山と同様の問題を抱える地方都市も指している。

■現在の中期目標では、そのニュアンスがまだ弱いように感じる。この中期目標の中に、是非その発想を入れていただきたい。

■私も同様の意見である。この地域に優秀な人材を幽閉する必要はない。福知山モデルとして外へ出していくことも必要。もちろん、市民の思いを考えると、福知山公立大学の中心はあくまでも福知山であるということを押さえることは必要である。しかし、大学が狭いスパンでモノを考えるのは設置の趣旨から外れる。何か良い表現があると思う。

- ・外部資金、独自資金の件については、このご時勢、地域、自治体、企業に対して協議しても、持ち出し一方では何も聞いてくれない。winwinの関係をいかに作るかが重要。地元の高校まわりでは、受験をしてもらうだけではwinwinにはならない。送り出す高校は合格、入学があつて初めてwin。その場合、定員200名体制、50名の地域枠がひとつの要素になる。企業にインターンシップをお願いすることは、企業にとっては正直余計なことになる。しかし、卒業時にその大学のエースをもらいたいと言ってもらえるような関係性を作ることが重要。そうすれば企業からも研究費を出しましょうという話になってくる。常に相手の立場で考え、相手に何の成果を残せるかがを考えることが大切。具体性、リアリティを持って折衝することが必要である。

■財務内容の改善は最も重要だと思う。数値目標は書きづらいと思うが中期計画や年度計画において具体的に目標を掲げてもらって取り組んでもらいたい。大学の成功

を必達目標として頑張ってもらいたい。

⇒今回の大学については失敗できないミッションであると考えている。全ての情報などを公開して、いろんな課題が出てでもそれにすぐに対応できる失敗しないシステムを作りたい。特に財政については数値的に出てくるので、しっかり情報公開してその中で対応を明確にしていきたい。

(委員長)

事務局においては、今日、委員の皆さんから頂いた御意見を参考にして中期目標の策定手続きを進めていただきたい。

## 6 閉会

以上